

～子どもを中心とした社会教育の方策による持続可能なあたみをめざして～

課題	社会的	・少子高齢化やコロナ禍の影響による活動規模の縮小 ・指導者、メンバーの固定化や高齢化 ・ライフスタイルの多様化による核家族化や共働き家庭の増加 ・地域とのつながりの希薄化
共有	子ども	・幼稚園、小学校で開級されていた 「家庭教育学級」の開級数減少 ・各地域での子ども会活動などが減少傾向 ・地域の担い手不足で後継者が見つからない

調査

スポーツ少年団交流体験教室
（調査結果）
文化的体験も必要がある

家庭教育学級
（課題・現状）
学級長の役割増加

公民館寺子屋
（課題・現状）
準備・片付けの時間・労力

市内文化施設見学
（調査目的）
地域の文化資源の把握

課題共有・現地調査を経た社会教育委員会での協議内容

※特技のある人が登録し、学びたい人に市が情報提供する事業

- ・世帯数の減少により一人の負担が大きい ・学校や保護者以外の協力組織をつくる ・生涯学習人材バンク※の活用
- ・子育ては親だけでなく地域で行っていくもの ・中高生や大学生等若い年齢層や移住者の取り込み

《国の動向》第4期教育振興基本計画

「日本社会に根差したウェルビーイング※の向上」

※身体的・精神的・社会的にいい状態であること

第 38 期静岡県社会教育委員会報告書

ウェルビーイングの実現には、「つながり」を意識した活動が最も重要である

方策

熱海市の特徴 ・都心等へ通勤通学している若者

・セカンドライフを過ごす経験豊富な移住者

アウトリーチへの転換～地域へ向けた情報発信 から 誰もが参加しやすい仕組み・環境づくりへ

「教育系ボランティア人材」登録制度の構築

⇒既存の人材バンク※の進化・拡充

- ・地域活動に参加するきっかけづくり
- ・子どもに携わることで大人たちがやりがいや生きがいを感じ、地域活動の活性化につながる
- ・第三者組織が既存の地域活動（団体）を支援する

【提言】

“プラットフォーム”をつくろう

「新しい組織をつくるのではなく、既存の団体や個人の
タテ・ヨコ・ナナメのつながりを生む場や仕組みのこと

連携の輪をボランティアが支える「にじゅうマル」型支援

地元企業

行政



～今後の展望～ ・「教育系ボランティア人材」の本格的な運用開始に向けての協議（R7年度より登録募集開始）

・地域学校協働活動推進員、社会教育委員を中心に、各地域でのプラットフォームとなる会議の開催

⇒子どもと大人が一体となった“つながり”が、地域の連携・愛着を生み、持続可能なあたみをめざす